

2024年 8月 11日 << 聖 餐 式 >>

主 日 礼 拝 ①8時半 ②10時半 ③夜7時

司 会 ②白川 達男兄

奏 楽

祈 禱 ②石井 洋子姉

賛 美 聖歌590番「救い主イエスと」
～栄光あれ～

パウロの祈り②

聖書朗読 使徒行伝13章38～41節

特別賛美 西田玲美奈姉・田中隆美姉

メッセージ 「神の働きを信じる者となる」
石井 潤 牧師

聖 餐 式 賛美「主イエスの十字架の血で」
献金・賛美 ～アメイジング・グレイス～

祝 禱

お知らせ [司会者]

賛 美 ～あなたはわがカ～

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします!☆
《今週のお知らせ》

☆本日は聖餐式の恵み(十字架と復活)を感謝します!午後は執事会があります。

★今週の祈り会:①明朝6時。 ②木曜祈禱会はお休み。 ③土曜夜8時。

☆来週も日曜礼拝を大切にしましょう!(司会:白川達男兄/祈禱:石井秀人兄)。

☆☆一年に一回聖書を完読できる! Bible Reading Plan [8/11-/18]☆

Date	日	月	火	水	木	金	土	日
聖書箇所	詩篇 81-87	88-91	92-101	102 -105	106 -109	110 -118	119:1 -88	:89 -:176
チェック	○○○○ ○○○	○○○○	○○○○○ ○○○○○	○○○○	○○○○	○○○○ ○○○○	○	○

「神の働きを信じる者となる」

～神の恵みに生き続ける～

「だから、兄弟たちよ、この事を承知しておくがよい。すなわち、このイエスによる罪のゆるしの福音が、今やあなたがたに宣べ伝えられている。そして、モーセの律法では義とされることができなかったすべての事についても、信じる者はもれなく、イエスによって義とされるのである。」
使徒行伝13章38・39節

パウロとバルナバは、アンテオケの教会で兄弟たちと共に主を礼拝し、祈りと断食を通して、聖霊が働かれて、神様の働きのために、宣教の働きに旅立つこととなりました。パウロはタルソに退いてから、何もできずに悶々としていたかもしれません。やっとなら、神様の働きのために、イエス様の事を伝えるために立ち上がることができたことが嬉しくてたまらなかったと思います。

しかし、行く手には様々な困難も待ち受けていました。まず、彼らの前に立ちはだかったのはバルイエスというユダヤ人の魔術師でした。「ユダヤ人」と明確に書かれています。旧約聖書では、魔術を行うことはどれだけ神様が忌み嫌うことであるかが記されています(レビ19章他)。そんな神の御心とは真逆な事をしていたのがこのバルイエス。だからかもしれませんが、彼は外国の地で、まじない師、魔術師として生きていました。そんな人物との対決がパウロの最初のミニストリーでした。しかし、実践が全くないような初心者であれば、こんな大胆なことはできなかったでしょう。パウロもすでに場数を踏んでいたと考えられます。しかし、このことが解決したことで、福音宣教の大きな前進がなされました。その土地の有力者が主を信じたのです。

そして、次の宣教地に向かいましたが、その時に、助け手として連れていたマルコが一行から離れてしまいます。どうして、離れてしまったのか？バルイエスとの霊的戦いで恐れを感じたのか？攻撃的なパウロについていけなくなったのか？パウロは元々はマルコたちを迫害し、苦しめた人物でしたから、そんな恐れも感じたのかもしれません。しかし、マルコとはパウロは後に良い関係として変えられています。時には、お互いを理解できずに、すれ違うようなことが起こるかもしれませんが、同じ主に仕えていく時に、必ず変えられて、分かり合える日が来ることを信じます。人間が解決できることは限られていますが、私たちは主にあって変えられ続ける者同士ですから、主の豊かな導きの中で変えられていくと信じます。

その後、ピシデヤ地方のアンテオケの町で、パウロはまずユダヤ人たちに向けてメッセージを語りました。そのメッセージはパウロにとっても、ユダヤ人たちにとっても画期的なメッセージとなりました。「モーセの律法では義とされない世界をイエス様を信じることで義とされる世界が開かれた」と明確に福音のメッセージを語りました。そのメッセージに感動したユダヤ人たちは、もう一度同じメッセージを語るようにパウロにお願いしました。しかし、今度はうわさが広まったのか、ほぼ全市を挙げて人々が懸け集まったので、逆に、その群衆を見て、当のユダヤ人たちが嫉妬し、パウロとバルナバを迫害するようになってしまいました。何という愚かなことでしょうか。そして、彼らユダヤ人たちが、それからしつこくパウロを苦しめ続けることとなるのです。